

イスラエルの最新情報

2010年9月26日 アシェル・イントレーター

入植地建設の凍結

今日、イスラエル領土内(注)における、同意による入植地建設の凍結期間が終わりました。建設凍結を継続するようという強力な圧力が、ベニヤミン・ネタニヤフ首相にかかっています。どうか、ネタニヤフ首相に知恵、すなわち正しいことを行うことを理解し、そしてそれを行う勇気が与えられますよう祈って下さい。もし彼が建設凍結の継続に同意するならば、イスラエルとパレスチナの交渉を続けることが促進されるであろうし、アメリカ合衆国や国連をはじめとする国際的な圧力をやわらげることになるでしょう。

注:イスラエルの入植地問題は、特に東エルサレム地区と呼ばれている場所は、1967年イスラエルがヨルダンからエルサレムを奪還し、その後1994年にヨルダンはイスラエルと協定を結び「イスラエル・ヨルダン平和条約」、東エルサレム地区の領土権を放棄しましたが、そこに住むパレスチナ人が、その後1995年にパレスチナ暫定自治区が出来た際、東エルサレムをパレスチナの首都と宣言しているところから問題が発生しています。東エルサレムはイスラエルが実効支配しており、その地の「入植」は、イスラエル側から見ると「自国領地」に新たな居住区を設けるというものです。パレスチナ人から見れば、彼らにとっての領土内に「侵入」したと受け取られるのです。

その一方で、建設凍結の維持に同意することは、ギブ・アンド・テイク、そして約束を果たすという交渉の基本原則を破ることになります。イスラエルは制限付きの建設凍結に同意し、実行しました。しかし、その見返りは一切ありませんでした。

さらに、建設凍結の継続は、イスラエルがその領地内(訳注:上記の注を見て下さい)に居住区を建てることは、テロリズムと同等であるという国際的な神話を助長させるのです。イスラエル人の国民は家が必要です。もし、ある国が黒人やイスラム教徒に対して居住区建設の凍結を強要したら、世界はどう反応するでしょうか。もしイスラエルが、イスラエル国内にいるアラブ人に家を建てるのを凍結するよう強要し、それが和平交渉を開始する前提条件だと言った場合、どうなるでしょうか。入植地に対する反応はユダヤ人に対する人種差別的な態度であることは明らかだと思われます。

真実への愛

今週、イスラエルに対する「ダブル・スタンダード(二重基準)」が拡大しています。アフマディネジャド大統領は国連でスピーチを行い、アメリカ合衆国とイスラエルが貿易センタービルへの攻撃に責任があると述べました。オバマ大統領は入植地建設の凍結を続けるようイスラエルに強要する一方、

パレスチナに対して何の譲歩も要求していません。フロリダ州の牧師がコーランを焼くと述べたことに対してヒステリックな反応がありましたが、世界中で数多くの抗議行動が行われ、イスラム教徒がアメリカやイスラエルの旗を燃やしたこと(ましてやクリスチャン宣教師の殺害に関して)に一言も触れられませんでした。国連はイスラエルのガザ船団への対応について非難しましたが、イスラエル兵が最初に攻撃を受けたという写真によるはっきりとした証拠があるのです。

ローマ 1:25「それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。」

Ⅱ テサロニケ 2:10「また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」

イザヤ 5:20「ああ。悪を善、善を悪と言っている者たち。彼らはやみを光、光をやみとし、苦みを甘み、甘みを苦みとしている。」

イスラエルに対する国際的な政治的、そして報道を通しての攻撃は、真実をある程度軽視していることを反映しています。彼らにとっての問題は、実際何が起こったか、何が正しいか間違っているかではなく、どれほどイスラム教徒の感情を損なうことや、国連が不快になるかです。

以下、ワシントン・タイムズのダニエル・パイプス氏の記事をご覧ください。(英語)

<http://www.washingtontimes.com/news/2010/sep/20/rushdie-rules-reach-フロリダ州/>

ジェノバでのデモ活動

9月28日、スイスにある赤十字の国際本部で、ギラッド・シャリート兵士のためのデモ活動が予定されています。このデモ活動と、イスラエルに対するダブル・スタンダード(二重基準)について、カレブ・メイヤーズとソロモン・イントレータが作成した動画をご覧ください。

<http://www.youtube.com/watch?v=j6GBXLwixzw>

アハヴァット・イエシュアでの仮庵の祭り

先週、エルサレムにある私たちのCongregationにおいて、仮庵の祭りを始めるにあたり、特別なお祝いを行いました。私たちは仮庵を立て、シュロの葉を振り、賛美と礼拝を行い、イエヘズケル・イントレーターは霊の実に関するメッセージを語りました。私たちはまた、私たちが今行っていることと、Ⅱ 歴代誌 5章に述べられている神殿の奉献との類似について、啓示が与えられました。

それは、第七の月(3節)で、仮庵の祭りがそこで行われていました。私たちは彼らがそうであったように(2節)エルサレムにいます。エディ・サントロ師やダン・ジャスター師が代表する私たちの共同体の長老(4節)たちもいます。私たちは礼拝時に(7節)「契約の箱」そしてトーラーの巻物があります。私たちのコングリゲーションのメンバーから、(注)コーエン一家(11節)そしてレビ族(12節)の者が前に出て、ハイム・ワルシャウスキ師のリードによって、祭司の祝福を行いました。

注: アロンの子孫として、現代まで伝わっている複数の家系がある。有名なのがコーエン(Cohen-ヘブライ語で祭司「コーヘン」)、オッペンハイマー、カーン、カツツなど。

私たちの礼拝チームは楽器を持って集まりました(12-13節) 私たちは、私たちのただ中に神が、神殿の奉献の一部であった歴史的そして契約的条件の回復を始めて下さっていることが分かりました。ソロモン王(1節)の代わりに私たちは王でありメシアであるイエシュアの御名によって、一致して集まっています。

II Chronicles 5:13, 14「そのとき、その宮、すなわち主の宮は雲で満ちた。…祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかつた。主の栄光が神の宮に満ちたからである。」

私たちが礼拝を始めた時、聖なる臨在が部屋を満たしました。それは世界中の多くの「カリスマ的な」礼拝に似ていましたが、そこには特別な畏敬の要素がありました。私たちは一度に、同時に聖なる古代からの源と将来の預言の種に触れている感じがしました。

シムハット・トーラー

今週、仮庵の祭りの終わりはユダヤ教の聖なる日である「シムハット・トーラー」(訳注:「律法の喜び」という意味)を記念します。ユダヤ教のシナゴグにおいて、1年かけてモーセの律法が通して読まれます。[明らかに、イエシュア(イエス)は同様に朗読の周期に参加していました(ルカ 4:16-17)。]この聖なる日、朗読の周期が申命記の終わりとなり、創世記の最初に戻るのです。

毎日、「鉄のような」自己鍛錬で聖書を黙想することは、真の霊性の基本となるものです。1年間で旧約聖書、新約聖書全体を読み通すのはすべての信者にとって基本なのです。しかし、ミニストリーに携わる者はさらに行わなければなりません。私たちは聖書を区分(律法書、歴史書、預言書、諸書、福音書、使徒書簡)で読むことをお勧めします。そして、これらの区分の中で、最初から最後まで順番に一定に読み続けるのです。毎日同じ分量を読むことをお勧めします。ポイントは、聖書を黙想することは、抜かすことのない毎日の習慣であることです。

詩篇 1:2, 3 「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても

栄える。」

この毎日の読書週間が、信仰による忠実さと誠実さが伴うならば、人生において行うことすべてにおいて祝福へと導かれるのです。